

基肄城築造1350年

基肄城を知る①

私たちの町の宝 基肄城跡



皆さんは、町の北側に聳える

基山（きざん）をご存知でしょうか。おそらく多くの方が「当然知っているよ」とおっしゃる

かも知れません。「今さら何を？」という方もおられること

でしょう。なぜなら、基山は、昔から町のシンボリックな存在として親しまれ、草スキー・登山・子供たちの遠足などの憩いの場

としても、多くの町内外の人々が訪れてきました。また、基

山の頂上（標高約404m）からは、町内はもとより、北は博

多湾、南は有明海、そして雲仙方面まで見渡すことができるとい

う、素晴らしい眺望を楽しむことが

楽しめるという、素晴らしい眺望を楽しむことが



基肄城跡航空写真（背後に大野城跡・水城跡）



基山山頂の基肄城跡土塁線（昭和28年頃）



昭和30年頃（約60年前）の基山山頂の様子

できます。このようなのかな

基山に、日本最古の本格的な山城といわれる「基肄城跡」という宝が残っているのです。

基肄城は、日本書紀の記載によれば、百濟という友好国の再

興に協力するため、朝鮮半島に出兵した当時の日本が、663

年の白村江の戦いで唐・新羅軍に敗北してしまったことから、

次は日本に両国が攻めてくるか

も知れないという危機的状況への

早急な対応が必要となり、664年に壹岐・対馬などの北部

九州に防人・烽火を配置し、同年に現在の大宰府政庁の北西部

に水城、そして翌年の665年に大野城とともに基肄城を築いた

のです。このように基肄城は、現在の中国・朝鮮半島という東

アジアの国際情勢の中で、我が国が直面した大事件をきっかけ

につくられたのです。

この城は、基山山頂から谷を挟んで東の峰までの60ヘクタールを超える広大な範囲を敵から

守るために約3・9キロメートルの城壁で囲み、所々に門を設置し、城内には、主に武器や食

料を保管するためなどの建物をつくっています。敵が攻めてきた

時には、城内にこもって戦うためのものと考えられています。

基肄城跡は、昭和12年に古代山城として日本の城の歴史を考

えるうえで極めて価値の高いものであることが認められて、国の史跡として指定されました。

そして、昭和29年には、我が国

の史跡の中でも特に重要なもの

として、国宝級である「特別史跡」となっています。これも築

城から千年以上という長い間、現在のようないた、郷土の先人

伝えているのだと思います。つまり、基肄城跡は国の宝であるとともに、町（郷土）

の宝でもあると言えるのではないのでしょうか。

基肄城は、来年の平成27年に築造から記念すべき1350年目を迎えます。このたび、これを契機として、基肄城や基山について、本町の歴史研究団体である、基山の歴史と文化を語り

継ぐ会の皆さんとの協働により、毎月15日号の広報きやまで紹介させていただきます。

※問合せ先 教育学習課

ふるさと歴史・文化係

電話92-2200